



ワークショップ 前

1. 育てたい生徒像

- 様々な資料を根拠に、多面的・多角的に検討することで批判的な思考力を育てる【歴史的思考力の育成】

2. 単元(本時)の授業の目標

- なぜ、世界で初めての産業革命はイギリスでおこったか。

3. 授業の中での具体的な問い

【Extensions】

- ①なぜ、世界で初めての産業革命はイギリスでおこったか。(so what)
- ②イギリス産業革命にはどのような歴史的な意義があるか、評価せよ。

【Connections】

- ①経済規模や人口が中国やフランスに比べて小さかったにも関わらず、なぜ、世界で初めての産業革命はイギリスでおこったか。(資料から得た気づき)

【Ideas】

- ①なぜ、世界で初めての産業革命はイギリスでおこったか。(抽象化)
- ②技術革新はどのように推移したか。(具体化)

ワークショップ 後

1. 育てたい生徒像

- 様々な資料を根拠に、多面的・多角的に検討することで批判的な思考力を育てる【歴史的思考力の育成】

2. 単元(本時)の授業の目標

- 「産業革命」と「工業化」のことばにどの程度違いがあると解釈できるか。

3. 授業の中での具体的な問い

【Extensions】

- ①' そもそもなぜイギリスから「産業革命」がおこったか。
- ②' イギリスにおける産業革命の歴史的意義をどのように評価できるか。

【Connections】

- ①' 産業部門における「後進国」であったにも関わらず、産業革命が生じたのはなぜだろう。
- ②' イギリスで産業革命がおこった、「イギリス特有の理由」とはどのようなものだろう。
- ③' 産業革命の影響はどのようなものであろう。
- ④' 各国における産業革命の進展はいかなる相違点から生じたか。
- ⑤' 各国の産業革命は、どのような特質や課題を有していたのだろうか。
- ⑥' 日本やロシアにおける産業革命の起点は何だろう。
- ⑦' 各国における産業革命の「本格化」はいつごろからだろうか。
- ⑧' 各国の鉄道の敷設に着目すると産業革命の本格化はいつごろからだろうか。

【Ideas】

- ①' イギリスで産業革命がおこったのはなぜだろう。
- ②' 技術革新は具体的にどのように進展したのだろうか。
- ③' 産業革命によって、どのような変化が生じたのであろう。
- ④' イギリスに続いて産業革命がはじまった国はどこだろう。
- ⑤' 産業革命の進展において国家がどのような役割を果たしたのだろうか。

ワークショップを通した気づき+NEXT STEP

1. 深めたい、解決したいと思っていたこと

- 自己の授業をより一層、生徒に「気づかせる」「促す」「見出す」ものにするために必要な手立ては何か。

2. 改善のポイント

- **新たな気づき**：Cに着目するなかで、Iを「基礎知識」にとどめないこと。多義的な「解釈」やアイデンティティをもったIにすること。
- **改善のポイント**：生徒主体の授業へと転換するためには、という視点で問いの構造を転換している。特にワークショップを通じて、Cの問いを議論する中でEの問いを高められると考えたので、「産業革命」と「工業化」の定義の違いに着目させながら、工業化の進展の比較を考察させることで一層の深まりをつくることができると考えた。そのため、Cの問いの「経済規模や人口が中国やフランスに比べて小さかったにも関わらず、なぜ、世界で初めての産業革命はイギリスでおこったか。」をC'「産業部門における『後進国』であったにも関わらず、産業革命が生じたのはなぜだろう」として「後進国」とのイギリスに対する評価を見出させることで「論点」をつくることができるように工夫した。

3. 新たな問い～モヤモヤ感・先生方と共に考えたいこと

- 二項対立的な相対化ではなく、いくつもの視点や側面があって重層的に相対化でき、着眼点をもって焦点化できるようにするためにはどのようにするか。

Cの問いの具体化

	問いかけの意図 (活用できる疑問詞・接続詞)	評価の対象とする内容	具体的な問い
1	本当か、そもそも What	批判的な思考により、与えられた前提を問い直している。	<ul style="list-style-type: none"> • 各国の産業革命は、どのような特質や課題を有していたのだろうか。 • 各国における産業革命の進展はいかなる相違点から生じたか。
2	そう言える理由・ 判断の根拠 Why	考えの根拠が示され、考えや論が論理的に関係づいている。	<ul style="list-style-type: none"> • 日本やロシアにおける産業革命の起点は何だろう。
3	仮定と反事実的推測 If, If not	仮定によって、条件や状況を設定し推量の質を高めている。	<ul style="list-style-type: none"> • 各国の鉄道の敷設に着目すると産業革命の本格化はいつごろからだろうか。
4	～にもかかわらず Even though	異質な考えや矛盾等を取り入れることで、考察をより深めている。	<ul style="list-style-type: none"> • 産業部門における「後進国」であったにも関わらず、産業革命が生じたのはなぜだろう。
5	～なら、 ～が言えるだろう If then, If not then	前提に基づいて、新たな解釈や意味を付加したり、その幅を広げたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> • イギリスで産業革命がおこった、「イギリス特有の理由」とはどのようなものだろうか。
6	関係性の理解・発見 What ⇄ Why ⇄ How	関係性を理解したり、発見したりすることで、見いだした意味や内容を言語化している。	<ul style="list-style-type: none"> • 各国における産業革命の「本格化」はいつごろからだろうか。
7	その他		<ul style="list-style-type: none"> • 産業革命の影響はどのようなものであろう。